

地図となかよしになろう

配当時間 全7時間
学習時期 4月
教科書 P.2～15

研究単元「◆地図となかよしになろう」について

本単元では、自分の住んでいる地域や市（区）町村・都道府県を地図や資料などを活用しながら、調べ、考えることを主な学習内容としている。

令和2年度の4年生は、初めて地図帳にふれるため、本研究単元を下巻の巻頭に設定していることにより、地図帳の配布と同時に、地図学習を始めることが可能である。この研究単元では、さくいんなどの地図帳の基本的な使い方や、地図記号の一覧、土地利用図、等高線、縮尺などの地図を活用するうえでの基本的な知識や技能を習得させるようにしている。単元後半では、47都道府県の名称と位置を調べる学習を位置づけ、

都道府県クイズも取り入れて、確実に習得させるとともに、この研究単元以降で活用できるよう配慮している。

研究単元「◆地図となかよしになろう」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1学期	4月	地図帳を活用しよう ①	・地図の使い方について考えたり、地図帳を使ったりすることにより、進んで地図帳を活用しようとする意欲を高めることができる。	【主体的】 地図や地図帳について話し合い、地図帳の使い方について関心をもっている。
			地図記号に親しもう～ まちのようすがわかる地図～ 地図を色分けすると～ どんなことに使われているのかかわかる地図～	・地図を読み取ることで、地図記号や八方位の意味や使い方を理解することができる。 ・地図と現地の様子を撮影した写真を見比べて、土地利用図の色分けの意味が分かり、読図能力を高めることができる。	【知・技】 地図記号や八方位、土地利用の色分けを正しく理解し、それらをもとに、地図上の様子について考え、正しく地図を読み取り、理解している。
			地図を色分けすると～ 土地の高さがわかる地図～ 愛知県周辺の地図を見て、わかることを発表しよう	・地図と現地の様子を撮影した写真を見比べて、等高線の意味が分かり、傾斜の緩急を読み取ることができる。 ・地図記号や土地利用の色分けから、愛知県の特徴を読み取ることができる。	【知・技】 地図上の等高線と現地の写真をもとに、等高線の意味を正しく理解し、地図記号や八方位、土地利用の色分け、等高線などから、県の地形的特徴を読み取っている。
			きよりをくらべてみよう ～しゅくしゃく～ 行ってみよう、 見てみよう ～フィールドワーク～	・地図上の距離と実際の距離との関係を、コンパスを使って調べることで、縮尺の意味が分かり、目的に応じて地図を効果的に活用することができる。	【知・技】 縮尺の異なる地図を比べ、その特徴を分かりやすくまとめたり、地図上の距離から実際の距離を工夫して調べている。
			知っている都道府県がどれくらいあるだろう ①	・これまでの学習や生活経験をもとに、47都道府県の名称と位置を地図帳でたしかめたり、白地図に表したりすることができる。	【知・技】 地図帳を活用し、47都道府県の名称と位置を正しく白地図にまとめている。

研究単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**・・・地図記号や縮尺、等高線など、読図の基本を分かり、47都道府県の名称と位置を理解し、地図を読み取ったり、等高線の意味について調べたりすることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**・・・地理的な見方や考え方、および地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的スキルを身につけ、社会的現象を適切に見たり、考えたりする能力の素地を育てるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**・・・自分たちの住んでいる地域の地図、景観写真などの資料を問題解決の材料として効果的に活用する活動を通して、地図を日常的に活用していこうとする態度を育てるようにする。

前期	1学期	4月	都道府県を使った問題をつくってみよう ②	・これまでの学習を振り返って、都道府県を使った問題をつくることを通して、地図帳を活用したり、都道府県の特徴に関心をもったりすることができる。	【主体的】 都道府県の特徴に関心を持ち、地図帳を活用して、都道府県を使った問題づくりに意欲的に取り組んでいる。
----	-----	----	----------------------	--	--

1 わたしたちの県のように

配当時間 全6時間
学習時期 5月
教科書 P.126～135

▶ 小単元「1わたしたちの県のように」について

小単元の導入では、白地図をトレーシングペーパーにうつし取る活動を取り入れている。この白地図などを活用して、県内における自分たちの市の位置を調べる。そして、隣接する市や県との位置関係について方位や距離を調べ、言い表すことを通して、自分たちの市の位置を広い視点からとらえることができるようにしている。

さらに県に視野を広げ、まず、鳥瞰図や土地の様子をあらわした地図を見比べ、県全体の山地や平地、半島、川、海などの位置や広がりの様子をとらえる。その際、教科書P.2～15の「地図となかよしになろう」での学習を想起させるとよい。また、立体模型図を用意することができれば、実際に触るなどすることで、土地の高低についてより具体的なイメージをもつこと

ができる。次に、交通網の様子や主な都市の位置を調べさせる。導入で作成した白地図を教科書P.132の地図に重ねることで、中心都市に鉄道や道路、空港が集まっていることに気づくことができるようにしている。また、主な都市について調べることを通して、県内の産業について興味をもたせ、主な産業の概要や分布を調べることにしている。

小単元の終末では、自分たちの住んでいる県（都、道、府）をPRするためにクイズを作成する活動をおこなう。教科書P.135の例のように、市の位置、土地の様子、産業について写真を使ってクイズをつくり、お互いに出し合うことで、これまで知らなかったことや、改めて感じたよさに気づくことができるようにしている。

▶ 小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**……県（都、道、府）内における自分たちの市（区、町、村）の地理的位置、県（都、道、府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子、主な都市の位置などを理解し、地図や立体地図を活用して調べ、白地図にまとめることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**……県（都、道、府）の地形や産業などの概要やそこに見られる人々の生活の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、自分たちの住んでいる県（都、道、府）の地形や産業などの特色について考え、調べたことや考えたことを表現することができるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**……県（都、道、府）の地形や産業などの概要やそこに見られる人々の生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、自分たちの県（都、道、府）の特色やよさを考える態度を育てるようにする。

▶ 小単元「1わたしたちの県のように」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1学期	5月	大単元の導入 ①	・自分たちの住んでいる県(都、道、府)の特色に関心を持ち、学習の見通しをもつことができる。	【主体的】 自分たちの住んでいる県の特色に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
			わたしたちの岡山市はどこ? ①	・県(都、道、府)内における自分たちが住んでいる市の地理的位置や、隣接する市や県の位置などを理解することができる。	【知・技】 地図を活用して、県(都、道、府)内における自分たちの市の地理的位置を理解している。
			岡山県の土地のようす ①	・鳥瞰図や地形図をもとに自分たちが住んでいる県(都、道、府)の地形の様子を調べて、その特色を考えることができる。	【思・判・表】 県(都、道、府)全体の地形と高さや傾斜の様子を調べ、県の地形の特色について考えている。
			岡山県の交通とおもな都市 ①	・県(都、道、府)の道路や鉄道などの交通の様子と主な都市について調べ、県内の交通や主な都市のつながりを理解することができる。	【知・技】 県内の交通の広がりや、主な都市とのつながりについて理解している。
			岡山県の産業 ①	・県(都、道、府)内の主な産業の様子について、地図や写真などの資料をもとに調べ、県全体に見られる主な産業の概要や分布の特色を理解することができる。	【知・技】 県(都、道、府)全体に見られる主な産業の概要や分布の特色を理解している。
			岡山県をPRしよう ①	・これまで調べたことを振り返り、県(都、道、府)の特色(地形、交通、産業)について自分なりに考え、岡山県をPRするためのクイズにまとめることができる。	【知・技】 自分たちの住んでいる県(都、道、府)の特色について、調べた結果をノートに整理し、岡山県の特色をいかしたクイズにまとめている。

1 ごみのしまつと活用

配当時間 全 13 時間
学習時期 6 月
教科書 P.16 ~ 39

▶ 小単元「1 ごみのしまつと活用」について

本小単元では、ごみの処理について学習する。ふだん何気なく過ごしている生活のなかで、特にごみの処理についてはこれまで改めて考えたことのない子どもがほとんどであろう。廃棄物の処理について学習指導要領では、「ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げ」とされているが、本書ではその過程が目に見えて分かりやすいごみの処理を取り上げる。

佐賀県佐賀市を事例地に、子どもたちの学校から出るごみが、どこへ運ばれ、どのようにして処理されていくのかを学習する。さらに、ごみには様々な種類があることや、資源として再利用されること、また、それらの過程ではたくさんの働く人たちが関わっており、いろいろな努力や工夫がなされていることを紹介する。どうしても再利用できないごみについては、最終処分

場で埋め立てられることを取り上げるが、処分場には限界があることをとらえさせることで、ごみの処理には将来的な課題があることに気づかせる。また、ごみ袋の有料化をきっかけに、市役所の人の話から、ごみの処理には多くの費用がかかることを知り、そしてその費用は税金でまかなわれていることをとらえさせる。本単元の終末では、ごみを減らすための取り組みや、地域で活動している団体を紹介し、一人一人がきまりを守りながら、ごみを減らすよう心がけることの重要性を認識させたい。教科書 P.38 ~ 39 の「ふりかえてみよう」では、ここまでの学習を振り返りながら、「ごみをへらすために、自分たちにできることを考える」として、子どもたちが自ら率先して取り組めることをそれぞれで考えさせるようにしている。

▶ 小単元「1 ごみのしまつと活用」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1 学期	6 月	大単元の導入 ①	・1日のくらしのなかで、水、電気などの確保やごみの処理などが、わたしたちの生活と関わっていることに気づき、これからの学習に意欲を高めることができる。	【主体的】 自分たちの健康なくらしや生活環境を守るごみ処理と飲料水の確保について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
			自分たちが出すごみを調べる ①	・家庭から出るごみについて調べ、ごみの出し方などを話し合い、ごみ収集に関する関心を高めることができる。	【主体的】 自分たちのくらしから出るごみについて関心を持ち、ごみ調べについて意欲的に取り組んでいる。
			ごみステーションを調べる ①	・ごみの種類によって、出し方が違うことなどを調べたり、家庭でのごみの出し方など話し合ったりして、ごみ収集とその方法についてまとめることができる。	【思・判・表】 パッカー車によるごみ収集の様子や仕事に携わる人の話から、係の人の苦労や工夫について考えている。
			ごみステーションで調べたことを発表する ①	・ごみの種類によって出し方が違うことなどを調べたり、家庭でのごみの出し方など話し合ったりして、ごみ収集とその方法についてまとめることができる。	【知・技】 家庭のごみの種類や量、また、その処理について、観察・調査したり、自治体の資料で具体的に調べたりして、ノートなどにまとめている。
			もえるごみのゆくえ ②	・集められたごみはどのように処理されるのか、清掃工場を見学したり、係の人の話を聞いたりして調べ、清掃工場が工夫していることについて考えることができる。	【思・判・表】 写真や係の人の話から、清掃工場の工夫やごみ処理の問題を考え、自分の言葉で表現している。

▶ 小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**……ごみの処理と自分たちの生活や産業との関わり、ごみの処理に関わる対策や事業は計画的、協力的に進められていることを理解し、ごみの処理と自分たちの生活や産業との関わりや、ごみの処理に関わる対策や事業を見学、調査してノートや作品にまとめることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**……ごみの処理に関わる対策や事業について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、ごみの処理に関わる対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役だっていることを考え、調べたことや考えたことを表現できるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**……ごみの処理に関わる対策や事業に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究するとともに、健康な生活や良好な生活環境の維持と工場のために地域の人々が工夫や努力、協力をしていることを理解し、自分も地域社会の一員として、地域の人々の願いを実現していくために努力しようとする態度を育てるようにする。

前期	1 学期	6 月	清掃工場のくふう ①	・もえるごみの処理方法や、清掃工場働く人の努力と工夫について調べ、分かりやすくまとめることができる。	【知・技】 もえるごみを処理することについて、工場の人々の努力や工夫を見つけ、絵カードにまとめている。
			もえないごみのゆくえ ①	・もえないごみの処理の仕方を調べ、その処理には様々な工夫や問題があることを理解し、まとめることができる。	【思・判・表】 もえないごみを処理するには、種類ごとに違うことと、その処理には危険なことが伴うことを考え、表などに表現している。
			最終しよぶん場からしょうらいを考える ①	・最終処分場の工夫や、それがかかえる問題点と昔のごみ処理の問題点を調べ、まとめることができる。	【知・技】 最終処分場でのごみ処理の工夫と問題点、また、昔と今のごみ処理の違いを見つけ、調べたことをまとめている。
			広がるごみしよりの有料化 ①	・ごみ処理には、多くの費用が必要であることを知り、その費用を補う工夫として、ごみ袋が有料化されていることを調べることができる。	【知・技】 ごみ処理には多額の費用(税金)が使われていることを、市役所の人の話や費用の資料から読み取っている。
			ごみをへらすための取り組み ①	・進められているごみを減らす取り組みを調べるとともに、自分にもできるごみを減らす取り組みについて考えることができる。	【思・判・表】 現在おこなわれているごみを減らすための取り組みを発想の枠としてとらえ、自分なりのごみを減らす方法を考えている。
			わたしたちにできること ①	・新たなごみ問題について調べ、社会全体としてどのような取り組みをしていけばよいか地域の一員として考えることができる。	【思・判・表】 新たなごみ問題について調べ、社会全体としてどのような取り組みをしていけばよいか考え、自分の考えをノートにまとめている。
			ふりかえてみよう ①	・これまでの学習を振り返り、ごみの処理が、人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役だっていることを考えることができる。	【思・判・表】 これまでの学習を振り返り、ごみの処理が、人々の生活の向上と環境を守るために必要なことや自分ができることを考え、表現している。

2 命とくらしをささえる水

配当時間 全9時間
学習時期 7月
教科書 P.40～55

▶ 小単元「2命とくらしをささえる水」について

小単元の導入では、教科書P.40のイラストを見て話し合う活動を取り入れている。水は様々な場面で使われており、いつでも使えるように確保されていることに気づかせたい。また、「水道ご使用量等のお知らせ」や、1日に一人が使う水の量を表した資料を見て、水を使うにはお金がかかることや、自分たちは毎日大量の水を使っていることに目を向けさせ、市全体ではどれくらいの水を使っているのか調べさせる。次に、水がどのように運ばれてくるのか、学校の水の通り道から調べ、さらに市全体の地図から水の通り道をたどらせる。その結果、水道水は浄水場から送られてきていることが分かり、浄水場の働きに関心をもたせる。

浄水場見学の際は、事前に質問を考えて計画メモにまとめさせ、見学の視点をしっかりとらせておく。見学を通して、飲料水は多くの処理過程を経てつくら

れることや、浄水場で働く人は24時間水をつくり続けていることをとらえる。そして、安全で安心な水を、必要な量だけ送るように管理されていることや、災害に備えて配水管を丈夫なものにする工事などがおこなわれていることを知り、これらが地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役だっていることを理解できるようにする。

小単元終末では、東日本大震災の際水が使えなくなったことから、水の大切さを再確認させるとともに、水源を確保・維持するために森林が保全されていることをとらえる。そして、限られた水を大切に使うために、毎日の生活を見つめ直し、自分たちにもできることを考えさせるようにしている。

▶ 小単元「2命とくらしをささえる水」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	1学期	7月	くらしに欠かせない水 ①	・毎日の生活のなかで使っている水の量や料金について調べ、蛇口をひねるだけで出てくる水にもお金がかかっていることに気づき、水道に関心をもつことができる。	【主体的】 わたしたちの生活に欠かせない水に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
			たくさん使う水はどこから ①	・水を使う量は、人口や生活のしかたによって変わること気づくとともに、学校の水道管をたどることを通してその供給について問題意識をもつことができる。	【主体的】 水を使う量は、人口や生活のしかたによって変わること気づき、学校の給水設備を見学して分かったことなどから問題意識をもっている。
			水のふるさとと通り道 ①	・市内の学校や家庭に送られてくる水が浄水場から届けられていることを資料から読み取り、浄水場の働きについて、見学への意欲を高めることができる。	【主体的】 飲料水が私たちのもとに送られてくる仕組みについて意欲的に調べ、浄水場の仕組みに関心をもっている。
			水道水をつくるじょう水場 ②	・浄水場の見学を通して、川の水を安全な水につくりかえ、必要な量をいつでも供給できるようにしている浄水場の仕組みを見つけることができる。	【知・技】 浄水場の見学などにより、飲料水の確保が計画的、協力的に進められている仕組みについて理解している。
				・浄水場で働く人々が、工夫や努力をしながら、安全な飲料水の確保を計画的、協力的に進めていることを考えることができる。	【思・判・表】 浄水場で働く人々の仕事や工夫や努力と、安全な飲料水の確保とが関連していることを考え、自分の考えをノートにまとめている。

▶ 小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**・・・飲料水の確保と自分たちの生活や産業との関わり、飲料水の確保に関わる対策や事業が計画的、協力的に進められていることを理解し、飲料水の確保と自分たちの生活や産業との関わり、飲料水の確保に関わる対策や事業が計画的、協力的に進められている様子を見学したり、調査したりして調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**・・・飲料水の確保に関わる対策や事業について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、飲料水の確保に関わる対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役だっていることを考え、調べたことや考えたことを表現できるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**・・・飲料水の確保に関わる対策や事業に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究するとともに、自分も地域社会の一員として、地域の人々の願いを実現していくためにともに努力し、協力しようとする態度を育てるようにする。

前期	1学期	7月	安全・安心な水を送る仕事 ①	・水道局で働く人が、工夫や努力をしながら安全な飲料水の確保を計画的に進めていることを考えることができる。	【思・判・表】 安全で安心な飲料水を確保するための浄水場で働く人々の工夫や努力について考え、自分の考えをノートにまとめている。
			毎日水が使えるのは当たり前のこと? ①	・毎日の水の使用について振り返り、水の大切さを再認識するとともに、限りある水を守るためには、森林環境の保護が重要であることを理解することができる。	【知・技】 水を守るためには森林環境の保全が重要であることを理解している。
			かぎられた水をたいせつに使うために ①	・飲料水をつくるために必要な資源には限りがあることから、水の無駄な使い方を見直したり、川の水を守るための活動を知ったりして、水を有効に使うことの大切さを考えることができる。	【思・判・表】 飲料水をつくるために必要な資源には限りがあることから、水の無駄な使い方を見直し、有効に使うことが大切であることをわたしたちのくらしと関連づけて考え、チェックリストに表わしている。
			ふりかえってみよう ①	・これまで学習してきたことを振り返り、飲料水の確保が、人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役だっていることを考えることができるようにする。	【思・判・表】 これまでの学習内容を振り返って、飲料水の確保と自分たちの生活の関連について、ノートやワークシートに表現している。

1 自然災害から命を守る

配当時間 全 12 時間
学習時期 9～10月 補助教材 P.2～19

▶ 小単元「1 自然災害から命を守る」について

本小単元では、水害発生時の「対処」と発生する前の「備え」を追究する。東京都で起こる自然災害の多くが台風や豪雨による風水害である。この地域では、川の治水工事と都市化が同時進行でなされてきたといえる。近年は「地球温暖化」の影響で都市部の気温が周辺部より高くなる「ヒートアイランド現象」などの影響で集中豪雨が増えているため、さらに、内水氾濫の都市型水害が起きる危険性が高まっている。それに対して、東京都は「水害に強いまちづくり」として、下水道や川の整備など大規模な治水対策を行ってきている。追究段階では、まず「水害の原因」を学ぶ。その上

で、東京都や杉並区の「水を流す」「水を貯める」「地面にしみ込ませる」「自然の力で防ぐ」の四つの観点での「水害を防ぐ備え」を調べる。次に、災害発生時に重要となる「情報」を役だてるための工夫を、国や東京都、杉並区、町会他関係諸機関について調べる。そして、防災訓練など「災害時の対処のため取り組み」を通して、災害対策について話し合ったり、自分の考えを再構築したりする活動によって、学習を深めていく。「災害に備えて自分たちができること」などを考えることで、日常的な実践力につなげていきたい。

▶ 小単元「1 自然災害から命を守る」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

一学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
前期	2 学期	9 月	大単元の導入 ①	・過去に起こった災害が大きな被害を与えていることから、自然災害に関心をもち、都道府県で起こった自然災害について調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 東京都で過去に発生した自然災害を調べ、自然災害について問いをもち、追究する意欲をもつことができている。
			水害のことを知る ①	・東京都をおそった自然災害のうち、風水害の被害が多いことに気づき、災害時の対処や被害にあわれた人の話から、水害について詳しく調べようとする意欲を高めることができる。	【主体的】 東京都をおそった自然災害のうち風水害の被害が多いことや、災害時の対処を調べ、地域の水害について詳しく調べようとする意欲を高めている。
			水害について調べる ②	・学校の近くを流れる妙正寺川を見学したり、水害の様子を調べたりすることで、水害を防ぐ工夫や努力について学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 水害が起こったことのある妙正寺川を見学することを通して、学習問題を考え、予想し、学習計画を立てることができる。
			水害の原因を調べる ①	・東京都に多数ある河川とわたしたちの生活とのつながりから水害の原因を調べることで、都市型水害について理解することができる。	【知・技】 東京都をおそった水害のうち都市部の水害の原因は、開発が進んだことから舗装された道路や処理しきれない下水道等によるものであることを理解している。
後期		10 月	水害を防ぐしせつを調べる ①	・水害を防ぐための施設についての資料を収集し、資料を効果的に活用して調べ、水害を防ぐには、「流す」「貯める」「しみ込ませる」などの施設が必要であることを理解することができる。	【知・技】 水害を防ぐ「流す」「貯める」「しみ込ませる」ための施設などの資料を収集し、効果的に活用して、水害を防ぐ施設等について調べ、理解している。

▶ 小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**・・・東京都や杉並区の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**・・・過去に発生した東京都の自然災害や、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きについて考えたことを適切に表現することができるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**・・・東京都や杉並区の関係機関や人々が、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを追究しようとしている。

後期	2 学期	10 月	自然の力を調べる ②	・自然の力の大きさに気づき、東京都が行っている森林の保護は、水害を防ぐ重要な取り組みであることを理解することができる。	【知・技】 水害を防ぐ自然の力についての資料を収集し、効果的に活用して、水害を防ぐ森林の働きについて調べ、森林の保護は水害を防ぐ重要な取り組みであることを理解している。
			情報を役立てる ①	・気象庁や東京都など地方公共団体から出される防災情報について調べ、どのように役だてていくのかについて考えることができるとともに、これまでの学習を振り返り、「さらに考えたい問題」を立てることができる。	【思・判・表】 気象庁や東京都などの地方公共団体から出される防災情報について調べ、どのように役だてていくのかについて考えている。
			災害にそなえる取り組み ①	・災害に備える取り組みを考えると、「わたしたちにどのようなことができるか」という問題を立て、東京都や杉並区、地域の防災組織での災害に備える取り組みについて調べ、どのように参加していくのかについて考えることができる。	【思・判・表】 東京都や杉並区、地域の防災組織での災害に備える取り組みについて調べ、どのように参加していくのかについて考えている。
			災害対さくについてもう一度考える ②	・これまでの学習を振り返り、防災ホームページや東京防災などの資料をもとに、水害への備えについて、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりすることができる。	【主体的】 災害対策基本法をもとに取り組まれている東京都の水害に関する災害対策について理解するとともに、自分たちにできることを考えている。

※補助教材をご使用ください。

県内の文化財と年中行事

配当時間 全9時間
学習時期 11月 教科書

小単元「県内の文化財と年中行事」について

本小単元については、旧版の教科書には記載がないため、平成29年に告示された新しい学習指導要領に示された内容を踏まえながらの取り組みになる。以下、『小学校学習指導要領 解説 社会編』の記述を頼りに、取り扱い方についてふれることとする。

都道府県内の伝統や文化に関する内容については、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、文化財や年中行事の様子をとらえ、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、文化財や年中行事は、地域の人々

が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにする。調べる対象としては、例えば、都道府県内を代表するような歴史を伝える建造物や遺跡、民俗芸能などの文化財、地域の人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事が考えられ、地図や関係機関が作成した資料などを活用して、その名称や位置などが大まかに分かるようにすることが大切である。なお、平成29年告示の学習指導要領において、「伝統的な文化を保護・活用してまちづくりなどを行っている地域の様子を学ぶ学習」との違いに配慮する必要がある。

小単元「県内の文化財と年中行事」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

一学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	2学期	11月	昔の建造物をさがす ①	・都道府県内の主な観光地などを表した観光マップやこれに関連する写真、観光客数の推移を示したグラフなどを調べ、都道府県内には古い建造物が多く残されていることに気づき、詳しく調べてみたいという興味をもつことができる。	【知・技】 都道府県内には古い建造物があることに気づくとともに、観光客数の推移を示したグラフから、年間の観光客数や近年の移り変わりについて読み取っている。
			建造物についてさぐる ①	・興味をもった古い建造物について、関係する人たちから話を聞くなどして調べ、調べた建造物が都道府県を代表するシンボルの一つとして大切にされていることを知り、学習問題をつくることができる。	【主体的】 古い建造物が建てられたわけや時期などを意欲的に聞き取り、自分が調べたいことをまとめるとともに、学習問題をつくり、予想を立てている。
			年表にまとめる ①	・都道府県内を代表する古い建造物について、県のウェブサイトやパンフレットなどを活用してその歴史について調べ、年表にまとめることができる。	【思・判・表】 これまで調べてきたことや写真資料などをもとに、自分に必要な情報を選ぶとともに、年表にまとめている。
			カードにまとめる ①	・都道府県内を代表する古い建造物以外にも多くの建造物があることを考え、それらについて調べ、カードにまとめることができる。	【思・判・表】 パンフレットや図書資料などから必要な情報を読み取り、それぞれの建造物についてカードにまとめ、それを班で持ち寄ってすごろくをつくっている。
			まちに伝わる祭り ①	・祭りなどの年中行事を展示している博物館や資料館を見学し、学芸員の話聞くなどして、都道府県内の祭りに関して興味・関心を高めることができる。	【主体的】 博物館や資料館を見学し、学芸員の話聞くなどして、都道府県内の祭りに関して興味・関心を高め、意欲的に調べようとしている。

小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**・・・都道府県内の古い建造物や祭りなどの年中行事について、見学活動やインタビューなどを通して調べ、建造物の保存や年中行事の継承に関わる人々の心情等に迫るとともに、課題があることを理解することができる。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**・・・都道府県内の古い建造物や祭りなどの年中行事について、学習問題を考え、根拠のある予想を立てることができる。さらに、学習問題の解決に向けて調べたことを通して、年表やカードなどに自分なりの表現でまとめることができる。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**・・・都道府県内の古い建造物や祭りなどの年中行事について、見学活動やインタビューなどに積極的に取り組み、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、学習を的確に振り返ることができる。

後期	2学期	11月	祭りについて調べる ①	・興味をもった祭りについてもっと知りたいという思いから、その祭りに関わる情報を集めて学習問題をつくり、予想や学習計画を立てることができる。	【主体的】 興味をもった祭りに関する情報を集め、時期や練習の仕方、道具などについての確に読み取り、学習問題をつくとともに、予想や学習計画を立てている。
			祭りをささえる人々 ①	・祭りに関わる人たちに、どのような思いをもっているかを手紙などでたずねることを通して、祭りに参加する人たちの気持ちを理解することができる。	【知・技】 祭りに対する気持ちや苦勞などを読み取り、メモに簡潔にまとめたり、自分が調べたいことを書き足したりしている。
			祭りにかける思い ①	・祭りに関わっている人たちにはどのような思いがあるのか、手紙の内容などから読み取るとともに、これまで調べてきたことと合わせて、新たな課題を見出すことができる。	【思・判・表】 祭りに関わる人たちの思いと、これまで調べてきたことを合わせて考え、新たな課題を見出すことができる。
			課題の解決に向けて ①	・新たな課題に関する取り組みを調べることを通して、今、自分にできることを考えたり、友達の見聞を聞いたりして、祭りに対する興味・関心を高めることができる。	【主体的】 新たな課題に対して真摯に向き合い、解説策を考えることを通して、伝統芸能に対する関心・意欲を高めている。

1 よみがえらせよう、われらの広村

配当時間 全 13 時間
学習時期 11～12 月
教科書 P.104～119

▶ 小単元「1 よみがえらせよう、われらの広村」について

本小単元では、和歌山県広川町の「稲むらの火」の主人公として有名な浜口梧陵を先人の例として取り上げている。浜口梧陵の働きを具体的に調べることを通して、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができるようにしている。

「浜口梧陵はどのようなことをした人なのだろう」という学習問題を設定し、浜口梧陵の足跡を訪ね、地元のいろいろな人に話を聞き、学習問題を解決していくという構成をとっている。

「ふりかえってみよう」のページでは、学習したことを振り返り、紙しばいにまとめて発表・交流する学

習活動を提示している。

▶ 小単元「1 よみがえらせよう、われらの広村」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	2 学期	11 月	大単元の導入 ①	・安政南海大地震の絵図を手がかりに、地域を開発した先人の働きや苦心について学習意欲を高めることができる。	【主体的】 安政南海大地震の絵図を手がかりに、地域を開発した先人の働きについて関心をもち、本単元の学習の見通しをもっている。
			浜口梧陵と広村のていぼう ①	・浜口梧陵について知っていることを発表し合い、資料を読むことから、浜口梧陵や今も残る堤防について関心をもつことができる。	【主体的】 浜口梧陵や今も残る堤防について関心をもち、意欲的に調べている。
			見学する計画を立てる ①	・見学する計画について話し合うことで、浜口梧陵や堤防などについて自分なりの学習問題を見出したり、その学習問題に対する予想をしたりしながら、学習計画を立てることができる。	【主体的】 浜口梧陵や堤防などについて、自分なりの学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。
		12 月	「稲むらの火の館」をたずねる ③	・町に残る施設や資料館を見学し、浜口梧陵や堤防の様子、津波による被害について具体的に調べることができる。	【知・技】 町に残る施設や資料館を見学し、浜口梧陵や堤防の様子、津波による被害について必要な情報を集め、読み取っている。
			浜口梧陵のあとをたずねる ②		
			津波に負けないていぼうをつくる ②	・100年後も村を守る堤防をつくるために、堤防づくりの計画やつくった人々の努力を調べ、話し合うことで、浜口梧陵や村人たちの工夫や苦勞を理解することができる。	【知・技】 100年後も村を守る堤防をつくるための人々の取り組みを調べることを通して、浜口梧陵や村人たちの工夫や苦勞を理解している。
		浜口梧陵について話し合う ①	・浜口梧陵のしてきたことについて話し合うことで、浜口梧陵の人物像について考え、地域の人から話を聞くなどして、自分の考えを適切に表現しようとする。	【思・判・表】 これまでの学習や、ゲストティーチャーの話などから、浜口梧陵の働きや苦心、後世の人たちに残そうとしたものを考え、それに対する自分の考えを表現している。	

▶ 小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**・・・地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心を理解し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を見学・調査し、調べた過程や結果をまとめることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**・・・地域の発展に尽くした先人の働きについて学習問題や予想、学習計画を考え表現し、**に関する目標** 地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心について考え、ノートなどに表現できるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**・・・地域の発展に尽くした先人の働きに関心をもち、それらを意欲的に調べることを通して、**態度に関する目標** 地域社会のよりよい発展を考える態度を育てるようにする。

後期	2 学期	12 月	今のわたしたちのくらしと梧陵 ①	・堤防をつくった浜口梧陵の思いを話し合うなかで、完成した堤防が当時や現在の人々の生活に安心感をもたらしていることから、浜口梧陵に対する感謝の気持ちが強いことを考えることができる。	【思・判・表】 堤防をつくった浜口梧陵の思い、当時や現在の人々の堤防や浜口梧陵に対する思いについて考え、自分の思いを表現している。
			ふりかえってみよう ①	・これまでの学習を振り返り、紙しばいをつくる活動を通して、先人の働きや苦心と地域社会のよりよい発展についての自分の考えを深めることができる。	【思・判・表】 先人の働きや苦心と地域社会のよりよい発展について考え、調べたことをグループなどで紙しばいに表現している。

2 県の人々の暮らし

配当時間 全 15 時間
学習時期 1～2月 教科書 P.136～154

小単元「2県の人々の暮らし」について

小単元の導入では、県内の各地域のキャラクターを取り上げている。キャラクターには各地域の特産物などが使われていることに気づき、県内の特色ある地域について関心をもつことができるようにしている。

本小単元では、自然環境を保護・活用している地域として真庭市を、伝統的な工業のさかんな地域として備前市を取り上げる。まず、真庭市の蒜山高原に多くの観光客が訪れる理由について、地図やグラフ、道の駅の人の話から考えさせる。さらに蒜山高原の特産物について話を聞き、地形や気候を生かして特産物をつくっていることを理解させる。また、バイオマスの活用や町おこしの具体的な取り組みについて紹介し、観光客を増やす努力をしていることをとらえさせている。

備前市では、気候や土地の様子などを生かして備前焼づくりをしていることをとらえる。次に生産工程に

ついて調べるが、教科書 P.150～151 に作業名を書きこませ、作業の様子をとらえさせるとよい。そして、人間国宝の伊勢崎淳さんの話から、備前焼をつくる人の工夫や努力を考え、若い作家を育成したり、新しい備前焼を製作したりして、昔から受け継いできた技術を生かしながら備前焼をさかんにしようとしていることを理解させる。

小単元の終末では、これまでに学習したことをパンフレットにまとめ、蒜山高原や備前焼を PR する活動を取り入れている。

本小単元では、井原市の星空を守る取り組み、新見市の鯉が窪湿原、倉敷市の美観地区を、自然環境を保護・活用している地域の選択事例として取り上げている。地域の実情に応じておきかえて学習してもよい。

小単元「2県の人々の暮らし」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	3学期	1月	岡山県の観光地や特産物 ①	・自分たちの住んでいる県(都、道、府)のキャラクターなどについて話し合う活動を通して、県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活に関心を持ち、学習への意欲を高めることができる。	【主体的】 自分たちの住んでいる県(都、道、府)のキャラクターなどについて話し合う活動を通して、県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活に関心を持ち、学習への意欲を高めている。
			(1)ゆたかな自然を生かす真庭市 多くの観光客がおとずれる蒜山高原 ①	・蒜山高原の地理的環境や観光客数について話し合い、蒜山高原の自然環境や産業に関心をもつことができる。	【主体的】 蒜山高原の地理的環境や観光客数に関心を持ち、それらについて進んで話し合っている。
			自然を生かした観光地 ①	・蒜山高原の豊かな自然や気温の様子を調べ、観光客を増やすための具体的な取り組みを理解できるようにする。	【知・技】 蒜山高原では自然を生かした施設を整備したり、特産物を作ったりして観光客を増やそうとしていることを理解している。
			地形や気候を生かして ②	・蒜山高原の人々が地形や気候の特徴を生かして特産物を作っていることを考えることができるようにする。	【思・判・表】 等高線が記された地図や降水量を表したグラフから、蒜山高原の人々が地形や気候の特徴を生かして特産物を作っていることを考えている。
			地いきの未来を考える ②	・真庭市の人々の新たな町づくりへの取り組みを調べ、自然を生かすだけでなく、自然を守りながら産業を発展させ、観光客を増やそうとしていることを関連づけて考えることができるようにする。	【思・判・表】 真庭市の人々が豊かな自然を守りながら、バイオマスの活用を通じて、産業の発展や観光客の増加に努めていることを関連づけて考えている。

小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**・・・地域の自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活の特色やよさを理解し、地図を活用したり、資料を収集・活用したりして具体的に調べ、調べた過程や結果を白地図などにまとめることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**・・・自分たちの住んでいる県(都、道、府)内の特色ある地域について、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、特色ある地域やそこに見られる人々の生活の特色やよさについて考え、調べたことや考えたことを表現できるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**・・・自分たちが住んでいる県(都、道、府)内の特色ある地域について関心を持ち、意欲的に調べることを通して、自分たちの県(都、道、府)の特色やよさを考える態度を育てるようにする。

後期	3学期	2月	(2)伝統的な工業がさかんな町、備前市 備前焼づくりにちょうせん ②	・備前焼を見たり、備前焼づくりを体験したりしたことをもとに、備前焼づくりに関心を深めることができるようにする。	【主体的】 備前焼を見たり、備前焼づくりを体験したりしたことをもとに話し合い、備前焼について関心を深めようとしている。
			備前焼づくりのさかんな地 いき ①	・写真資料や地図、備前焼伝統産業会館の人の話から、備前市では、備前焼づくりに適した自然環境を生かして、備前焼をつくっていることを理解できるようにする。	【知・技】 備前市では、備前焼づくりに適した自然環境を生かして、備前焼をつくっていることを理解している。
			備前焼ができあがるまで ②	・備前焼の生産工程や伊勢崎さんの話から、備前焼をつくる人たちは、昔から受け継いできた技術を生かして作品をつくっていることを理解できるようにする。	【知・技】 備前焼をつくる人たちは、昔から受け継いできた技術を生かして、作品をつくっていることを理解している。
			伝統を守り、伝える ①	・備前焼をさかんにしていくための取り組みについて、調べる活動を通して、備前焼の伝統を守る人々の思いについて考えることができるようにする。	【思・判・表】 備前焼をさかんにしていくための取り組みについて調べ、備前焼の伝統を守る人々の思いについて考えている。
			パンフレットでPRしよう ②	・これまでの学習を振り返り、学習したことをパンフレットにまとめることができるようにする。	【思・判・表】 蒜山高原や備前焼の学習を振り返り、学習したことをパンフレットにまとめている。

3 世界に広がる人とのつながり

配当時間 全5時間
学習時期 3月
教科書 P.158～165

小単元「3世界に広がる人とのつながり」について

本小単元では、岡山県とつながりのある世界の国々について取り上げている。前時まで、岡山県内の各地域について学習してきた子どもたちの目を海外へ向けさせるきっかけとして、サッカーによる中華人民共和国との交流を扱う。また、岡山県や岡山市が中国以外の国々とも交流したり、それぞれの国には国旗があったりすることを知らせるようにしている。次に、岡山県が他の地域とどのように結びついているのかを調べていく。そのなかで、岡山県はオーストラリアやブラジルなどから鉄の原料である鉄鉱石を輸入し、自動車や製鉄、石油製品に加工し、輸出しているという工業のつ

ながりを知る。また、倉敷市にある美術館には、世界の有名な作品が展示されており、外国からの観光客も多いことや、岡山県の果物は世界で人気があることを知る。次に、自分たちの学校にいる外国の先生の話から、新幹線や飛行機を使って日本各地を訪れる人が多いことを知り、岡山県が交通を通して、人によって他地域とつながっていることに気づくようにしている。単元の終末では、これまで調べて分かったことをカルタや地図にまとめ、県をPRしようとしている。さらに「ふりかえてみよう」では、ノートやシートでさらに詳しく岡山県のことを紹介するようにしている。

小単元「3世界に広がる人とのつながり」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント(評価規準)

一学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	本時のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	3学期	3月	岡山県とつながりのある世界の国々 ①	・岡山市のサッカーチームや友好関係を結んでいる国を調べる活動を通して、自分たちが住んでいる県(都、道、府)と外国との関わりに関心をもつことができる。	【主体的】 自分たちの住んでいる県(都、道、府)と外国との関わりに関心をもつとともに、友好関係を結んでいる国との交流について意欲的に調べようとしている。
			産業によるつながり ②	・自分の住んでいる県(都、道、府)の特色ある産業を調べることを通して、自分の住んでいる県(都、道、府)と外国が、物を通してつながっていることを理解できるようにする。	【知・技】 自分の住んでいる県(都、道、府)と国内の他地域や外国が、産業や文化を通してつながっていることを理解している。
			交通によるつながり ①	・自分の住んでいる県(都、道、府)と他地域や外国とを結ぶ交通について調べ、様々な交通手段により国内の他地域や外国とのゆききがさかんにおこなわれていることを理解しようとしている。	【知・技】 自分の住んでいる県(都、道、府)と外国が、人を通してつながっており、国内の他地域や外国とのゆききが交通手段を利用してさかんにおこなわれていることを理解している。
			ふりかえてみよう ①	・これまでの学習をもとに「ふりかえりシート」をつくる活動を通して、県(都、道、府)の特色について自分の考えを広げることができる。	【思・判・表】 これまでの学習をもとに、自分で選んだ県(都、道、府)の特色について「ふりかえりシート」に自分の考えを表現している。

小単元の目標

- ▶ **知識・技能に関する目標**……人々の生活や産業と国内の他地域や外国との関わりを理解し、地図を活用したり資料を収集・活用したりして調べ、調べた過程や結果を白地図などにまとめることができるようにする。
- ▶ **思考力・判断力・表現力**……県(都、道、府)内の人々の生活や産業と県内や国内の他地域、外国との関わりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、自分たちの住んでいる県(都、道、府)の特色を、より広い視野から考え、調べたことや考えたことを表現することができるようにする。
- ▶ **主体的に学習に取り組む**……自分たちの住んでいる県(都、道、府)と国内の他地域や外国との人やものを通してのつながりや産業の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、自分たちの県(都、道、府)の特色やよさを考える態度を育てるようにする。